

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0591100060	
法人名	(有)バスケの街能代企画	
事業所名	グループホームあにの里	
所在地	秋田県北秋田市阿仁銀山字上新町80-7	
自己評価作成日	平成 30 年 10 月 17 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団	
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1	
訪問調査日	平成 30 年 11 月 14 日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんが持っている能力を使いながら、安心して家庭的な雰囲気の中で生活出来るように支援させていただいています。一人で過ごされる時間も大切に、仲間と過ごす時間も設けお互いに協力出来る事を考えながら生活しています。季節ごとの行事や食事会、誕生会を開催し季節を感じ、祝い楽しんでいただければと行事を計画しています。一人一人の生活歴、性格、想いを受け止めそれぞれの気持ちに寄り沿ったケアが出来る様に、スタッフも努力をしているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「朝起きれる」、「自分でご飯が食べれる」、「気持ちよく過ごせる」等今できていることを維持できるように職員が同じ方向を向き、常に寄り添い、利用者本位の支援を実践している。長期間入居している方も多く、家族のような和やかな雰囲気があり、職員のチームワークも良好である。地域との関わりや医療との連携もよく図られている。重度化や終末期の対応については、希望される場合は関係者の連携体制を整え、ホームでの看取りを可能にする取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフで理念を作り上げ、利用者さんの意向に寄り添えるようなケアの実践に向け、努力している。	理念を基に、毎月職員が交代で月の目標を掲げ、ケアを実践している。理念については、利用者の状態が変化してきていることから、職員会議や随時のミーティングで意見を出し合い、今年度作り変える予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の活動に地域の方、運営推進委員・民生委員の方、保育園の皆さんに参加してもらいながら、地域の中の施設として交流している。	開所当時は地域との交流は全く無かったが、日々の挨拶はもちろん、施設を覚えてもらう努力を少しずつ積み重ね、今では地域に根差した施設となっている。地元出身の利用者も多く、昔から馴染みの方もいて、いつも声をかけてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	認知症ケアにあたるスタッフの一員であると自覚し、それぞれ研修等で学ぶ機会を設けている。地域の方からの相談にも随時応じている。スタッフの中には、在宅で認知症の親の介護をしている人も居る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方々は、利用者さんの特徴を理解されており、体調や状態の変化についても気に掛けて下さっている。避難訓練には、可能な限り参加していただき、施設の実情把握にも協力いただいている。	委員のメンバーは、除雪のボランティアを率先して行ってくれたり、避難訓練にも参加してくれたり施設の運営を見守り、支援してくれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事や運営推進会議の場でも、ありのままのホームの姿を見ていただいている。	運営推進会議に市の職員が参加している他、支所の職員とは顔なじみの関係になっており、会った時にはお互い声を掛け合い、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員間で学ぶ機会を定期的に設けており、身体拘束の無いように注意を払いケアに努めている。	身体拘束の実施事例はない。職員会議で参考資料を提示しながら勉強会を行っている。精神科薬については、受診を重ねながら綿密に薬調整をしてもらうことでQOLの向上に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について職員間で学ぶ機会を定期的に設けており、虐待の無いように注意を払いケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について職員間で学ぶ機会を設けている。実際に制度を活用した例はないが、必要時、活用して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に利用者さん、家族さんと面談や見学の機会を設け、不安や疑問を解決し、十分に納得していただいた上で後日、契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフとの日常会話や、電話や手紙等で意見や要望を述べていただいております。ご意見伺い箱の活用も入居時に説明しており、意見や要望には速やかに対応し、改善に繋げている。	意見や要望があれば直接職員に話せる関係ができています。例えば「ナースコールを設置して欲しい」「センサーマットを設置して欲しい」等、利用者・家族からの提案に対し、事業所の備品として整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議の後に、会議の内容を報告すると共に、今後に向けた意見交換をしている。代表者と話合う機会も度々あり、意見や要望を伝え、対応してもらっている。	施設の改修や物品の購入等の要望・意見を提案しやすい状況にある。今年度は乗車定員が以前より多い車に更新したことで利便性が増している。また、管理職は職員の日常業務の状況を把握し、処遇改善に繋げる等の評価をしている。	管理職は月に2～3回事業所を訪問、職員は運営に関する意見や提案をし易い状況にあり、前向きな姿勢で取り組んでいる。今後、グループホーム連絡協議会等を活用することで、より新しいケア技術や情報を事業所内に取り入れることができ、更なるスキルアップ期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を職員に周知しており、日頃より努力し、向上心を持って仕事に取り組んでもらっている。また、利用者さんとの関わり合いなどの部分にも目を向けて評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の経験や努力、実力に合った研修などに参加出来るような体制を整えている。働きながら資格取得を目指す職員には、無理なく講習が受けられるようなシフトを組む事している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会を出来るだけ多くし、意見や情報の交換を積極的に行い、更なるサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談で、可能な限りの訴えや要望伺い、不安の解消に努めている。入居の際は、面談に対応した職員が出迎え、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用開始まで、家族さんとの面談や電話相談で心情を受け止める努力をしている。入居後も、状態が落ち着かれるまで、連絡を密に取り合っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくりと向き合う時間を大切にし、その方の状態に合わせた話題やレク内容を提供し、共に暮らす仲間としての想いを大切にしている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの想いを都度、家族さんに連絡し、本人の意向を大切にしながら、入居後も家族と繋がっている事を感じていただいている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や、店等との関係が途切れないように、入居後もホームや外出先で共に過ごす時間が持てるように努めている。入居者さんが希望する場所へは、ドライブをしながら出掛けている。	地域で人形劇があると「観においで」と声掛けしてもらい観に行ったり、通院の帰りに、家族了解の元、家に寄ってきたりしている。帰宅願望の強い利用者は、本人のペースに合わせて一緒に外出している。近所の商店で買い物希望される方は一緒に行ったり、馴染みの美容室に送迎したりと、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係性を把握し、孤立する方が居ないように対応している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じ相談を受けたり、街で会った際には声を掛け合い、関係を断ち切らない様な付き合い方をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想いや、願いを聴く機会を設けている。困難な場合は、家族さんから意見を伺う等して対応している。	利用者の思いや希望はできる限り叶えられるよう努めている。対応が難しい場合は、理由を時間をかけて丁寧に説明することでお互いの信頼関係が築かれている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントの活用に努め、利用者さんの生活歴を把握した上で、その方に合ったケアへ繋げている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅時に、利用者さんが日課にしていた事を継続出来るように努めている。また、一人一人の有する能力を持続出来るように、日常の中の簡単な作業も行って頂いている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアに対するアイデアを家族や関係者からも出していたいただき、それを反映した介護計画を作成している。	担当制を基本としているが、職員全員でモニタリングを行い、職員会議で検討を重ね介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り時に情報交換を行い、改善すべき点や取り組むべき点について話し合いを持ち、ケアへ活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じながら、民生委員の方、運営推進委員の方、近隣の地域住民の協力を得ながら、行事を行ったり、参加したりしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や、かかりつけ薬局を持つと共に、本人・家族の希望する所を利用出来るように支援している。	基本的に職員が付き添い、それぞれの病院を受診している。また、入所時は、認知症の治療をしていない方が多く、本人、家族同意の元、精神科を受診し、適切な薬の処方に至るまで、週に何度も医師に相談に行き、丁寧に綿密に調整してもらい、その人らしい暮らしにつなげている。かかりつけ薬局は2か所あり、配達してくれ、随時相談にのってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の医師や看護師に相談しながら、健康管理や、医療活用の支援をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院関係者に速やかに情報提供をし、利用者さん、家族さんが不安泣く治療を受けられるように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期のあり方について家族さんも心配されており、状態をみて特養等の他施設への入所申し込みの支援を行っている。	これまで看取りの実施事例がある。重度化や終末期の対応については、家族等と話し合いを重ねながら主治医・協力医療機関等と連携を図っている。状態に応じて特養への申し込み支援を行っているが、家族等がホームでの看取りを希望される場合は、関係者の連携体制を整え対応している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、北秋田市消防署の協力のもと、全職員が救急救命講習(上級)を受講し、万が一の場合に対応出来るように、実践力を身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民や、地域の方々へは日頃から火災時等の避難協力をお願いしている。避難訓練には地域の皆さんにも協力いただいている。	地域の方(運営推進委員)が「グループホームあにの里入居者夜間緊急時避難誘導協力者」の一覧を作成し、連絡先が明記されている。年2回の避難訓練の記録から、近所の方の参加状況も確認できた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応、記録については利用者さんの誇りやプライバシーに注意を払い、その方に合った対応を心掛けている。	トイレ介助や入浴時の声掛け・介助はもちろん、靴や衣類、車椅子等への記名を目立たない所にする等、当たり前のことに配慮するよう気を付けている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面での自己決定を大切にし、利用者さんが理解しやすい言葉を選び、話掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんの体調を考慮し、可能な限り希望に添えるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容については、利用者さんや家族が希望されている店で出来る様に支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や気分によるが、準備や方付けを利用者さんと職員と一緒に、行うようにしている。	食事担当がメニューを作成し、食品担当が食材を購入している。食べれない物や嫌いな物はきちんと代替品を準備しており、品数も多く、全体的な量が多いが、完食されていた。今年度は、山菜の下処理が出来る利用者も増え、一人ひとりが出来る事、楽しめる事を考えながら行っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握した上で、必要とされる分量を提供するように心掛けている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の状態や能力に応じた口腔ケアを実施している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを掴み、オムツばかりに頼るのではなく、トイレで気持ち良く排泄出来るように支援している。	前回は、食事、水分摂取状況と排泄パターンが別のシートで管理されており、排泄パターンがつかみにくかったが、今年度は様式が変更され以前より確認しやすくなっている。便秘になりやすい人が何日目かを把握しやすくなり下剤の量の調整もしやすくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解した上で、予防の為に飲食物の工夫や、運動を取り入れている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男女別の入浴日は決めているが、体調や状況に応じていつでも入浴出来るように努めている。	週4回の入浴を基本としている。拒否的な方には声掛けを工夫することで入浴出来ている。以前は重度化した方が安心してゆっくり楽しんで入浴出来る状況ではなかったが、シャワーチェアや浴槽へのボードを購入したことで、安全に安心して入浴を楽しめる環境となっている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や、その時々体調に合わせて休息や睡眠が取れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬について理解すると共に、内服後の状況の変化についても細やかに記録に残している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、利用者さんの好み、能力に応じた活動が出来るように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内散歩や、ホーム前で景色を見ながら季節を感じていただいている。季節の行事には、皆でドライブがてら出掛け、買い物や外食を楽しんでいる。	ホームの周辺には、枝垂れ桜の並木や、こいのぼりが飾られる川があったりと、季節を間近で感じる事ができる環境となっており、日々散歩を楽しまれている。100kmマラソンが開催された際は応援に行ったり、近所のコンビニに行ったり、ドライブに行ったりと、本人の希望に沿った外出支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さん一人一人の能力を見極め、お金の所持や使用を支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の各々の場所に季節の植物を飾ったり、切り絵や貼り絵を展示している。空間は、利用者さんが快適に過ごす事が出来る様に配慮している。	皆の中に入れていない方や、ひとりでいたい方、相性が合わない方等個々の状態に応じて、ソファの向きや角度、位置を変えたり、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ポーチに設置したテーブル・ベンチ、ホールや各箇所にあるソファ等で過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設見学の際に、ホーム内や居室の構造を見ていただき、自宅を使い慣れた家具、必要物品を持ち込まれるようにアドバイスしている。	床暖房を主としているが「寝るまで寒い」と訴える方には、更に居室のエアコンで温度調整する等一人ひとりに合わせた室内温度に気を配っている。また、日中は同室で過ごしたり、お互い声を掛け合って過ごしている利用者もいる。テレビを設置したり家族写真を貼ったり、好みの寝具カバーを付けたり等、本人が居心地良く過ごせる空間になっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置しており、利用者さんの目線で、安全に生活出来るように配慮している。		